

## ・企画セッション

6月21日(木) 会場：多用途ホール(2階)

セッション1と2 11:05~11:50      セッション3と4 13:30~14:50

### セッション1 [地域ゲスト] 富岡 啓行(とみおか ひろゆき)氏

富岡氏は日立市のお天気相談所に長く勤務された気象予報士です。天文はアマチュアですが、その経験は古く半世紀ほどになります。流星観測や星食観測に特に熱心で、星食観測では長年の観測成果が認められ、海上保安庁より表彰を受けています。

日本の天文教育に貢献された多くの先生方と面識をお持ちで、プラネタリウムの解説で参考になるような裏話的なお話もお聴きできると思います。

### セッション2 [世界天文年]

2009年は世界天文年(International Year of Astronomy)です。世界天文年の目的は、ガリレオが天体に望遠鏡を向けてから400年のこの記念すべき年に、世界中の人々が夜空を見上げ、宇宙の中での自らの位置づけを知り、驚きと発見を感じる手助けをすることです。このたび国際天文学連合(IAU)が中心となるこの世界天文年に対して、日本委員会が組織されました。JPAとしてもこの世界的なイベントに主体的に参画したいと考えています。このセッションでは、日本委員会事務局長の小野智子氏、JPA側として石坂千春氏から、現状と今後について発表いただきます。

-----

### セッション3 [博物館法]

博物館法は昭和26年に制定されましたが、その後博物館等の数は年々増加し、またその形態も多岐にわたるなど、博物館を取り巻く状況は大きく変化しています。そのような中、博物館法の改正を含め、新しい時代の博物館の在り方が検討されています。新しい博物館法ではプラネタリウムや公開天文台など、新しい形態の施設も対象に含まれる方向で検討が進められています。今回、文部科学省より博物館法担当の小沢氏をお招きし、現在検討中の新しい博物館制度とプラネタリウムの関連についてお話を伺います。

### セッション4 [デジタルプラネタリウムの基礎]

スライドプロジェクタの生産中止によって拍車がかかった「デジタル」への移行。補助投影機から始まったこの流れが、プラネタリウム本体のデジタル化まで及んでいます。このセッションでは最近リニューアルを行い、現在「デジタル」機器を導入した館に実践報告をしていただき、何を持って「デジタル」というのか、「全天動画」「スライス」等のデジタル基礎単語の意味もお伝えします。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| 1.イントロダクション～レビュー  | 田部 一志((株)リブラ)  |
| 2.ユーザーの声：デジタルスカイ  | 中村 裕子(旭川市科学館)  |
| 3.ユーザーの声：バーチャリウム2 | 石坂 千春(大阪市立科学館) |
| 4.シアターデザイン        | 二見 広志((有)天窓工房) |

6月22日(金) 会場：天球劇場(9階) セッション5と6 9:30～11:15

### **セッション5 [老舗プラネタリウム一斉リニューアル]**

日本の老舗プラネタリウムが次々にリニューアルします。

今年度2007年10月は千葉市、2008年度7月に仙台市、2010年度に明石市、名古屋市、そして復活する渋谷区、2011年度に川崎市が予定されています。どのような機種になるのか、ドーム径はどれくらいか、どのような運営形態を取るのか、等々興味津々です。館の担当者のお話しや公開できる限界の情報をお伝えします。

### **セッション6 [宇宙・天文教育関連]**

全国のプラネタリウムが集結した今、あらためてどのような天文教育、宇宙教育が必要なのか、そしてプラネタリウムはどんな役割を担って行けば良いかを考え、実行する必要があります。

このセッションではJAXA宇宙教育センターの的川泰宣氏と、渡辺勝巳氏をお招きし、JAXA宇宙教育センターが実践しているさまざまな教育活動の内容や成果を紹介していただくとともに、宇宙・天文教育におけるJAXAとJPAの連携について考えたいと思います。